

2020年
1月7日
火曜日

東田 啓作 教授（環境経済学・国際経済学）

自由貿易と環境問題

自由な貿易が経済厚生を高めることは、経済理論で証明されているだけではなく、多くの統計データによつて示されています。また一九九〇年代以降生産工程のフラグメンテーションが深化し、複雑なグローバルバリューチェーンが形成されてきました。自由な貿易によつて私たちの生活はより速いペースで豊かになってきています。一方で、貿易が国境を越えた様々な環境問題を引き起こすことも事実です。貿易の利益をできるだけ損なうことなく、環境保護を実現していくための政策のデザインが必要なのです。

現実には起きている貿易に関連する環境問題は大きく3つのタイプに分けられます。1つ目は、輸入された製品を消費する際に負の外部性が発生する場合です。自動車の排気ガスやタバコの副流煙等が該当します。2つ目は様々な廃棄物や中古品の貿

易です。廃棄物がリサイクルされたり、中古品が再利用されたりすることによつて便益が生み出されます。一方で、輸入国内のリサイクル過程で有害物質が放出されたり、中古品がそのまま処分場に投棄されたりすると深刻な環境問題が発生します。

3つ目は、輸出国の生産段階において発生した排煙や排水などが輸入国の環境に負の影響を与える場合です。例えばメキシコの工場で生産された製品がアメリカで消費されるのと同時に、その工場からの排煙がアメリカの市民に影響を与えるような場合です。さらに、輸出国での生産工程で生態系が破壊され、輸入国の消費者がそのことから負の効用を得る場合があります。

一つ目のケースで鍵となる概念は内国民待遇です。世界貿易機関の基本原則の一つで「輸入品に適用される待遇は、国境措置である関税を除

き、同種の国内産品に対するものと差別的であつてはならない」というものです。国内産品と輸入品に対して同じ規制や税を課すのであれば、政府は輸入品を対象に含めた環境政策を実施することができません。2つ目のケースでは、有害な廃棄物の越境移動を禁止する条約（バーゼル条約）が締結されるなど、一定の条件を満たせば貿易を制限して環境保護とのバランスをとることが可能になっていきます。3つ目の問題は最初の2つよりも解決が難しい問題です。貿易の利益と環境保護とをバラ

ンスさせるために輸入国がどのような政策をとり得るかについて、まだ明確な合意に至っていません。生産段階での環境負荷の発生への対処は輸出国の選択です。輸出国、輸入国それぞれの経済発展の水準や価値観を反映した「差異ある責任」と、それに基ついた環境政策や貿易政策を

明確にする努力が続けられています。

- 1 関連する問題としては、例えば内記香子「WTOパネル・上級委員会報告書解説⑥」米国―マクロラベリング事件（メキシコ）（DS381）―TBT紛争史における意義―「RIETI Policy Discussion Paper Series 13P-014」を参照してください。（<https://www.rieti.go.jp/publications/pdp/13p014.pdf>）
- 2 詳しくは、経済産業省が発行している『不正貿易報告書2019年版』などを参照してください。